全般季節予報支援資料　寒候期予報　2016年 9月23日
予報期間：2016年10月～2017年2月　気象庁地球環境・海洋部

全般寒候期予報

＜予想される冬（１２月から２月）の天候＞

北・東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りの日が多いでしょう。

なお、１２月までの各月の予報については、最新の３か月予報等をご覧ください。

＜冬（１２月から２月）の気温、降水量および日本海側の降雪量の各階級の確率（%）＞

寒候期	気温(%)	寒候期	降水量(%)	降雪量(%)
	低 並 高		少 並 多	少 並 多
北日本	20:**40**:**40**	北日本日本海側 北日本太平洋側	20:**40**:**40** 20:**40**:**40**	30:**40**:30
東日本	30:**40**:30	東日本日本海側 東日本太平洋側	30:**40**:30 30:**40**:30	30:**40**:30
西日本	**40**:**40**:20	西日本日本海側 西日本太平洋側	20:**40**:**40** 30:**40**:30	20:**40**:**40**
沖縄･奄美	**40**:**40**:20	沖縄･奄美	**40**:**40**:20	

予報資料の解釈

1. 冬の間は、ラニーニャ現象が続く可能性が高い。熱帯の海面水温（SST）は、太平洋の日付変更線付近から東部で低く、西部では高い見込み（エルニーニョ監視速報参照）。
2. SST偏差に対応して、200hPa速度ポテンシャルでは、南シナ海付近で平年より対流活動が活発（発散偏差）。また、南米付近で発散偏差、日付変更線の西で収束偏差が明瞭。過去のラニーニャ現象発生時のハインドキャストによると、モデルでは南米付近の発散偏差が強く、太平洋全体の偏差パターンが西にずれる傾向があるため、モデルをやや修正してフィリピン付近で対流活動が活発、日付変更線付近から東で対流活動が不活発と考える（降水量も同様）。
3. フィリピン付近の対流活動に対応して、200hPa流線関数では、松野・ギル応答と活発な対流活動に伴う上層発散風により励起された高気圧性循環偏差があり、その北東側に準定常ロスビー波束が伝播して形成された相対的な低気圧性循環偏差がみられる。また、亜熱帯ジェット気流は大陸東部で北へ蛇行し、日本の東では南へ蛇行している。850hPa流線関数では、南シナ海からフィリピン付近にかけて松野・ギル応答による低気圧性循環偏差がみられ、その北側では南西諸島からインドシナ半島にかけて北東風が強まっている。これらの予測は概ねモデルどおり採用する。また、これら熱帯の対流活動やそれに関連した大気循環場の特徴は、過去のラニーニャ現象発生時の合成図と特徴がほぼ一致している。
4. 500hPa高度では、大陸にリッジ、北日本付近にトラフがみられる。北日本付近の負偏差には、予測の難しい寒帯前線ジェット沿いの波列が、フィリピン付近の対流活動による応答とほぼ同じ位相で重なっていると考えられるため、偏差の大きさは割り引くが、偏差パターンは採用する。また、地上気圧では、シベリア高気圧の勢力は全体的に強い予測となっているが、熱帯の対流活動に対応する大陸東部の正偏差（南東側への張り出し）のみ採用する。このため、西日本や沖縄・奄美を中心に大陸から寒気が流れ込みやすい（850hPa気温も参照）。一方、北日本付近では低気圧の影響を受けやすい見込み。
5. 北極振動については、予測精度が低いため、現時点では予報に反映できない。
6. 北半球層厚換算温度（大気全体の温度）は、予報期間内はアンサンブル平均で+0.5℃程度と高い予測。これは、地球温暖化の寄与が大きいと考えられ、気温の予報に考慮する。
7. 以上から、モデルの予測を概ね採用する。
   北日本では、低気圧の影響を受けやすい。日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が少ない。降水量は日本海側・太平洋側とも平年並か多い。北からの寒気の影響が小さく、大気全体の温度が高いため、気温は平年並か高い見込み。
   西日本と沖縄・奄美ではシベリア高気圧の張り出しが強く、大陸から寒気が流れ込みやすいため、気温は平年並か低い見込み。西日本日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が多く、降水量・降雪量ともに平年並か多いが、太平洋側では平年に比べ晴れの日が多い。ただし、太平洋側の降水量は、多雨となることが多い近年の傾向を考慮し、少雨傾向とはせず、ほぼ平年並とした。沖縄・奄美では、大陸からの寒気の影響で曇る日が多くなるが、低気圧や前線の影響を受けにくくなるため、降水量は平年並か少ない見込み。
   北日本と西日本の間に位置する東日本では、平年と同様に日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が多い見込み。寒気の影響を受ける時期もある見込みだが、大気全体の温度が高い傾向を考慮し、気温をほぼ平年並とした。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。